



大豪雨が終わり、箱舟を作った男が船室の扉を開け、甲板に出た。空も水面も青く澄み、土地は全く見えなかった。

「当分、水は退かなさそうだ」

その時、船の外、船体の外壁から「ガリリ、ガリリ」という不気味な音が聞こえてきた。音はどんどん大きくなっていく。何者かが、船体をよじ登ってくるようだ。

「何の音だ。大洪水で地上の生物は全て死に絶えたはず……。船縁から船体を見下ろした瞬間、鋭い爪が眼前に迫った。

☆

猫が修行をする山があるって、知っているかい？

熊本の根子岳ねこだけって山が、それだ。そこで修行を積むと、千匹に一匹の可能性で、猫又ねまたになる猫が出現する。

ぼくは、一歳の子猫の時に、飼い主の Ayahachan と Ayahachan

ちゃんのパパさんに、根子岳の頂上に置き去りにされた。

ホバリングの音がうるさい中、ヘリコプターの後部座席で、小さな檻に入れられたぼくに、

「ヴァン。ここで修行して、猫又になれたら、家にもどってくるのよ。猫又になれないままで戻ってきちゃダメ！」

と、ツインテールの髪を揺らし、IQ三〇〇の超天才、小学三年生の Ayahachan は、冷たくそう言った。ぼくは心細くて、「ニャー」と鳴いた。

「おい、おい。アヤ。そんな可哀想なこと言うなよ……」

操縦席のパパさんが振り向いて、そう言ってくれた。

「パパ！ 甘いこと言っちゃダメ。あたしたちは、最強の猫又を誕生させるため、ターキッシュヴァンの純粋種を、トルコの東アナトリアから密輸したのよ。世界征服の実現